

# 平成29年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：平成30年3月17日（土）  
午前9時30分～午後4時20分  
場 所：市役所前川新館3階第1～3会議室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員、川村委員（事業番号21まで）  
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

### <プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）  
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

### （公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度  
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度  
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

### （公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

## 【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている

実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

**【審査採点】**

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

**【決定方法】**

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●8：乳井区域内放棄地の環境整備と美化活動／乳井町おこし協力会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：健康のための散歩コースが完成すると、どの程度の時間で巡るコースになるのか。

A：実際にゆっくり話をしながら歩いてみたところ、1時間程度だった。

Q：乳井のPRをしていくことで、将来的には地域外からの訪問者がどのくらい増えると思込んでいるか。

A：できるだけたくさんの人に来てほしいが、現在の3倍程度になってくれればよいと思っている。

Q：長期的な事業の展望や、毎年のテーマがあれば教えていただきたい。

A：現在は、今後若い世代が管理に手間が掛かるようなことを残さないようにと考えて整備している部分もある。現在行っている整備が終われば、誰でも作業がしやすくなると思う。

**【主な意見】**

- ・整備を継続しているうちにため池の環境がよくなり、水のきれいなところに棲む生き物が増えてきているようなので、第二の「だんぶり池」のようになってほしい。また、SNS等を利用して発信していただきたい。
- ・地域のみんなの気持ちを推しはかりながら、みんなをまとめていき、住んでいる地域を

自分たちの手で変えていこうという意識が、これぞ「まちづくり」だと感じた。せっかくなので、手間のかかる部分にもどんどん人を巻き込み、活動が継続されるように期待したい。

- ・石川町会では、地域の公園をPRするために川柳や、過去には写真などを募集し、自分がその場に行った証になるようなコンテストを行っているので、そのような事例を取り入れてPRしてもよいのではないかと。

**【採択結果】**

合計点 86.0 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合計		86.0

● 5：宴の後は地球に戻そうプロジェクト／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：さくらまつりのような宴会の場で、それぞれの参加者が食べ残しを専用の袋に入れて持ち帰る方法より、日常的に使ってもらうような方法の方が共感を得られるのではないかとと思うが、団体としての考えを教えてください。

A：他地域では、花見の宴会ごみを持ち帰るのが原則となっているところもあり、弘前のようにごみを公園のごみ箱に捨てて帰ることを当たり前だという考えを打破したい。市内の各団体や企業なども公園で宴会を行うと思うので、この事業について周知して、宴会のときはごみを持ち帰ってもらう意識を持ってもらいたい。

Q：出てしまったごみをどうするかというより、ごみを出さないようにしようという啓発運動は行っているのか。

A：会代表は、県の地球温暖化防止活動推進員（アースレンジャー）として、食べ残しを出さないように啓発活動を行っている。活動を通して、目に見えないものはなかなか実感

してもらえないことがわかったので、食べ残しがどのくらいある、という見せ方をしながら啓発を行うために、今回のような企画をしている。

### 【主な意見】

- ・このような事業は、たくさんの人を巻き込んで広げていくことが必要だと思うので、活動日のたびにボランティアをお願いするだけではなく、一緒に活動してくれる協力者を増やせるように工夫していただきたい。
- ・市民が理解しやすく参加しやすいように、多くの人の意見を聴くなどしながら内容や方法を工夫していただき、参加者を増やしていただきたい。
- ・地域の小学校と連携をすることで、子どもたちの教育を兼ね、親子を巻き込みながら活動を広げることができるのではないかと。
- ・ごみ処理の問題の中でも、生ごみの処理費用は大きな問題だと思う。この問題に関する啓発活動は市内では少ないので、今後も継続していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 61.0 点  $\geq$ 60.0 点  $\Rightarrow$ 採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	4.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合計		61.0

### ● 20 : ひろかんセミナー／一般社団法人弘前芸術鑑賞会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q : いくつかの講座を定期的で開催しているが、新たに参加する人はいるか。

A : 新たな参加者もいる。例えば映画の鑑賞会だと 3 分の 2 は定期的に参加する方で、残りが初めての参加といったことが多い。

Q：参加者の男女比がどの程度か教えていただきたい。

A：男性の参加はかなり少ない。映画鑑賞会や俳句会では男性の方が多く参加することがあるが、そのほかの講座は女性の方がかなり多い。参加者の要望を聴きながら講座内容を決めていることもあり、女性向けの講座が増えている。

Q：参加者はどのあたりに住んでいる人が多いか。また、弘前の全域に情報が伝わるように、周知方法で工夫していることがあれば教えていただきたい。

A：参加者は会場周辺に住む人が多く、地区公民館にチラシを置いてもらっていてもなかなか隅々まで情報を届けられていないかもしれない。ただ、高齢者の居場所は各地域にあったほうが良いと考えており、今私たちが実施していることのノウハウを各地域に教えていき、ネットワークを組めるようになれば良いと考えている。

### 【主な意見】

- ・講座に参加している実人数、会員・非会員数、新規・リピーター数、男女比など、参加者を多面的に分析することで、企画の立て方や広報戦略に生かしていただきたい。
- ・高齢者の居場所として開催する講座では、受講生がただ教わるのではなく、受講生が講師になり、新たなコミュニティができていくという事例が全国各地にできているので、そのような事例を参考にしながら、人が集まるモデルケースとして、町会等に発信していただきたい。
- ・高齢者の中には、地域の中だけでなく外にも出かけて、新しいつながりを求める人もいるので、地域住民ではなく市全域対象のような講座のスタイルがあってもいいと思う。

### 【採択結果】

合計点 62.3 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合 計		62.3

● 21：終活講演会／一般社団法人弘前芸術鑑賞会

【質疑応答（抜粋）】

Q：講演会の定員に対し、周知にかかる経費が比較的高いように感じるが、周知に対する団体の考え方を教えていただきたい。

A：昨年度の講演会への参加者からアンケートをとったところ、チラシ・ポスターから講演会を知ったという方が40%と最も多かったため、チラシ・ポスター作成に経費をかけている。

Q：参加者に渡す資料の作成費がかかっているのに、参加費を徴収しない理由を教えてください。

A：参加費が有料になることで、参加者が集まるかどうかという不安があり、昨年と同様に無料で行うことにした。

Q：終活は個別のことなので、たくさんの時間を費やすことになると思う。真剣に終活について考えている人にとって、講演会の内容を聴いてどの程度得られるものがあると考えているか。

A：昨年度の講演では講師の体験談を事例にしながら、死をどのようにとらえるかというような全般的な話をしていただいた。今回も、個別のエンディングノートの書き方ということではなく、書き方のポイントについてや、最後に自分がどのように生きるかという点に特化して話を掘り下げていただく予定である。

【主な意見】

- ・参加者のための研修会や講習会の要素が強く、市民に学習機会を提供するというのであれば、受益者負担があるべきだと思う。
- ・中央から講師を呼んでの講演会だけで終わらず、集まった参加者同士が情報交換できるような場を作るなど、実施内容についても工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 45.8 点 < 60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	4.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	4.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	3.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	3.3
合 計		45.8

●6：小学校体育支援事業「運動大好きプロジェクト」／特定非営利活動法人スポネット弘前  
【質疑応答（抜粋）】

Q：学校と連携をしていると思うが、学校の先生方との今後の関わり方について教えていただきたい。

A：先生方にもアンケートを取っており、子どもにスポーツを楽しんでもらうプログラムが好評を得ている。外部講師が来られない場合に、先生方だけでもできるようなプログラムも作っている。地域と連携することで、良い内容の体育の授業ができるという体制ができつつあると考えている。

【主な意見】

- ・このような事業を行うことで、先生方の意識や体育に対する考え方もよくなると思うので、重要な事業だと思う。
- ・アンケート結果を読んでも、先生方から好評だったのがよくわかったので、今回も応援したい。

【採択結果】

合計点 84.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.5
合計		84.2

### ● 35：お弁当の日～お弁当で伝えたいこと～/HANDS企画室

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：弁当箱の大きさや形、お弁当を作る対象によってお弁当の詰め方が変わってくると思うが、ワークショップではどのような工夫をするのか。

A：現段階では参加者には一律の弁当箱を使ってもらうが、講師からはおすすめの弁当箱があれば、お話ししてもらいたい。また、「詰め方」のコツを1度覚えてもらえると、普段のお弁当にも応用できるので、1度詰めることを学んでもらうことが大事だと考え、お弁当を作る対象を設定せずに実施したい。

Q：事業のテーマの1つに「地産地消」があり、津軽の食材を使っていきたいという考えがあるようだが、今後お弁当の「詰め方」だけでなく、調理も行っていく予定はあるか。

A：1年間はお弁当の詰め方についてのワークショップを行う予定である。参加者にはアンケートをとり、調理もしてみたいという人が多くなれば、実際に調理してもらおうようなワークショップに移行することも検討したい。

#### 【主な意見】

- ・ 出店者がカフェ中心になると、洋風のお弁当に偏ってしまう可能性があるため、和風の弁当を置いてもらうなど、食育の観点も忘れないようにしていただきたい。
- ・ 参加者が普段使っている弁当箱をワークショップで使ってもらうと、はじめからお弁当を作る対象に向けての詰め方が学べると思う。
- ・ お弁当作りに苦手意識を持っていたり、うまく作れずに悩んでいる人は必ずいるので、このワークショップがいろいろなお弁当の作り方があるということを共有し、お弁当作りへのハードルを下げるきっかけの場になればいいと思う。
- ・ お弁当の「詰め方」と言われると、栄養面よりも見映えが中心と捉えられてしまうので、



お弁当の詰め方を学んだ後、どのようなことにつながっていくのかなど、目的や実施内容を検討していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 48.4 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	4.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	4.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	4.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	4.9
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	4.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	4.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	4.2
合 計		48.4

● 29 : 弘前暮らしの保健室／弘前暮らしの保健室

**【質疑応答 (抜粋)】**

Q : 実際に活動されているメンバーはどのくらいいるのか。

A : 構成員は5人だが、活動を続けている中で定期的に参加している人の中に協力してくれる人もでてきている。

Q : 最近の参加者は何人くらいか。

A : 10人前後の参加がある。本当は、もっとたくさんの方に参加していただきたいが、場所も市街地ではないこともあり、まだまだ事業が認知されていないと感じている。

**【主な意見】**

- ・スタッフがが増えて、どこかでもう1か所でも同じような事業ができるようなかたちを目指していただきたいので、例えば、月2回開催のうち1回を定期的に参加している方たちに現在の会場を任せて、メンバーはほかの地域で実施するなど、活動に広がりができる工夫をしていただきたい。
- ・市のボランティア団体や県・市の出前講座などをもっと活用することで、講師謝礼の削減につながるので、将来自立して事業を実施することも考えて、いろいろ調べてみていただきたい。

- ・開催場所が中心市街地ではないため、交通事情からも参加者が増えないという悩みもあるが、地域で実施しているからこそ地域の子どもたちと高齢者が交流できるような利点があると思う。
- ・高齢者の居場所は、メンバーが固定化されたほうが安心して参加してもらえる側面があるので、このような場所がどどんほかの地域にもできればいいと思う。そのためにも、幅広い年齢層のスタッフをもっと増やして養成することも大事になっていくと思う。

【採択結果】

合計点 79.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		79.5

● 15：弘前市民の森で元気になろう／弘前市民の森の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年度と一番違う点を教えていただきたい。

A：昨年度は、出張して行うお抹茶・押し花体験が無かった。市民の森へ出かける活動の宣伝を兼ねているが、今年度に向けて試しに実施してみたところ、参加者からは自分で作った押し花作品を家に飾るなどしてリラックスできるようになったという声もいただいている。

Q：研修会の日程は昨年と同じ予定か。

A：月1回程度の手定で出張体験を行う予定もあるので、昨年まで続けてきたゲートキーパーの講演を行わない予定である。町会のつながりが大事だと感じるようになったので、今回から始める出張体験は、コミュニティに向けて働きかけていきたいと考えている。

【主な意見】

- ・今回から新たに加えた出張体験は、市民の森での体験への新しい参加者を増やす可能性があると思うので、とてもいい企画だと思う。
- ・市民の森は市で管理・整備している場所で、草刈りなども行われているので、少しでもこのように利用する人や団体が増えてほしいと思う。

【採択結果】

合計点 72.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.9
合計		72.5

● 36：子育てが楽しくなるパパママ楽習会／子育てパパママ楽習会運営委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業のコンセプトを教えてください。

A：子どもをコントロールしない、子どもにコントロールされないことと、子どもの自立心を育むことを念頭に置いており、子育ての楽しさや、子育てが未来の弘前のためになっていることを伝える場にしたいと考えている。他地域でもいくつか同じような事業が広がっており、弘前でももっと輪を広げていきたい。

Q：他地域で同様の事業を行っている主体は、ボランティア団体が多いのか。

A：各地域でサークルが作られていて、子育てに対する考え方を広めるために講師を招いて講演会やセミナーを開催することが多いが、現状では首都圏を中心に実施されている。

Q：講師を遠方から招いての講演会を続けるだけでなく、将来的に団体構成員だけで事業を行っていきけるような計画があれば教えてください。

A：他地域では、継続的に勉強している人の中からミニ講座の講師が育っていると聞いて

いる。現状では、そのような地域ほど頻繁に活動ができないが、講演等で聞いた内容を振り返るなどして、3年程度を目途に講師を務める人材が育つようにしたい。

【主な意見】

- ・子育てにはいろいろな方法があり、講演会などでいろいろな話を聴くことによって、今度は自分が楽習会を手伝ってみたいという雰囲気が生まれているのだと思う。
- ・楽習会に参加した親同士が子育てに関してコミュニケーションを取ることで、学び合う場を作り出すことを目指していただきたい。

【採択結果】

合計点 69.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合 計		69.5

3月17日審査結果（37事業のうち9事業）

採択とする事業                    7事業  
 不採択とする事業                2事業

# 平成29年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：平成30年3月18日（日）

午前9時30分～午後4時10分

場 所：市役所前川新館3階第1～3会議室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員（事業番号27から）、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、垣内委員、三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員（事業番号25まで）、川村委員（事業番号25まで）

市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

3月17日に引き続き審査

《審査内容》

### ●37：津軽笛を通じた地域交流事業（第3回全日本横笛コンクール）

／津軽笛地域づくり実行委員会

#### 【質疑応答（抜粋）】

Q：作成するDVDの活用方法を教えていただきたい。

A：全国から集まる参加者に送付し、各方面へのPRに使ってもらうことや、市内の関係者へのPR活動に活用する。

Q：弘前からの出場者はどのくらいいるのか。

A：青森県からのエントリー数5人のうち、4人が弘前市からだった。弘前の人は、ずっと祭り囃子を主体に演奏してきているので、課題曲のねぶた囃子には自信があっても、自由曲に自信がないという人が多い傾向にあるかもしれない。

Q：他地域から参加している横笛奏者は、どのように笛の技術を身につけているのか。

A：地元の祭りから横笛を始める人や、太鼓チームに参加してお囃子を始めて、笛にも興味を持ったという人が多い。いわゆるカルチャー教室のようなところで習うことは少ないが、参加者の中には教室を持って笛を教えている人もいる。

#### 【主な意見】

- ・この事業は、弘前の外からも参加者を募り、外に向けて弘前をPRするために笛というコンテンツを使っているという、ほかの事業とは違った方向性で魅力を感じる。
- ・小学校にコンクール参加者が訪問することや、コンクールに100人の小学生を無料招待することで、祭り囃子以外の楽しい笛の吹き方や、笛は小学校以降もずっと続けて演奏していける楽器であることなど、自分達の文化の魅力を再認識できる場になると思う。

- ・他県からたくさんエントリーがあり、その人たちを応援しにくる観客もいることから、経済効果もあるという点は非常に評価できることだと思う。

**【採択結果】**

合計点 80.5 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		80.5

●14：太宰治ドラマリーディング 津軽カタリスト定期公演 事業／津軽カタリスト

**【質疑応答(抜粋)】**

Q：周知方法として、チラシだけでなく常時見てもらえるようなポスターを作る予定はあるか。

A：ポスターを作成すると、チラシとは別に経費がかかるので、経費を抑えるためにチラシのみで考えている。ポスターもあれば周知の効果が上がると思うので、来年度以降考えていきたい。

Q：まなびの家の指定管理者でもある「弘前ペンクラブ」と、それぞれの持っている能力を合わせて太宰治を満喫できるプログラムを提供するなど、太宰ファンに向けて、将来の活動展開があれば教えていただきたい。

A：まち歩きの際に弘前ペンクラブの方に案内してもらおうなど、実際に連携して行っていることがある。弘前ペンクラブは、毎月開催している文学講座で太宰の研究発表をしていることもあるので、将来的には小説「津軽」に出てくる今別や小泊などに行くツアーを組んで、その場で演じ、ペンクラブに解説してもらおうということができればと考えている。

Q：旅行会社やJRなどに事業をアピールしたことはあるか。

A：宣伝するとなると宣伝費がかかると思うので、どのくらいの費用が必要か調べてみたい。

### 【主な意見】

- ・太宰治ファンは幅広い世代で全国にたくさんいるので、SNSなど身近にあるコンテンツを活用して情報を発信していただきたい。
- ・ハード（太宰治まなびの家）とソフト（津軽カタリストのドラマリーディング公演）がうまく揃ってきたという印象があるので、今後も事業を継続して行ってほしい。

### 【採択結果】

合計点 79.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.4
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		79.5

## ● 7：城西エリアガイドブック／城西町会連合会

### 【質疑応答（抜粋）】

Q：地域の中から事業に協力してくれそうな人を探して、実行委員会に参加してもらうことは考えているか。

A：今年度は間に合わないかもしれないが、今後改訂版を出すなど事業は続けていく予定であり、作製に携わることでガイドブックにも愛着を持ってもらえると思うので、今後広く協力者を募りたい。

Q：来年度以降の改訂版を作る際に工夫したいと考えていることがあれば教えていただきたい。

A：今年度作ったものを地域の人たちが見た時に、さまざまな意見や情報提供があると思うし、いろんな人が住んでいるので人材の発掘ができるのではないかと考えている。現在作製に関わっているのは5人だが、何十人にもなってほしいと思っており、より地域を誇りに思えるものを作っていきたい。

【主な意見】

- ・町会内で、顔を見てもどこの人だかわからない人がいるという課題もあるとのことなので、人に注目してインタビューしたことを入れながらマップを作るなど、市民の視点でのこだわりを入れていくことで、地域に親近感がわくものができると思う。
- ・マップを作る際は、誰のために何の目的で作るかを明確にしていきたい。
- ・地域の人たちができたマップをただ見るだけでなく、例えば地図上に書き込みができて、それをもとに実行委員側に情報提供をしてもらえるような仕組みをつくるなど、使ってもらえるような工夫もしていきたい。

【採択結果】

合計点 73.6 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点（山形委員・川村委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.6
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		73.6

● 25：清原中央町会史発刊／清原中央町会

【質疑応答（抜粋）】

Q：町会史の活用方法について教えていただきたい。

A：当町会は古い歴史や歴史的遺産等のない新興住宅地であるが、町会としての歩みをまとめることに意義があると考えている。町会で行事を行っても参加者が集まらないのが現状ではあるが、地域住民に町会の歴史をまとめた冊子を読んでもらうことで、再び町会への共通理解を深めてもらいたい。町会ができてから40年間の歩みを理解することで、住



民の協力を得ながら、町会をよりよい形にしていく機会を作っていきたい。

Q：高齢者への対応について考えていることがあれば教えていただきたい。

A：民生委員が定期的に高齢者宅をまわっているので、どのような文字が読みやすいか聞いてみたり、編集委員会や印刷業者にも相談しながら文字の大きさなどを決めていきたいと思う。また、町会の最高齢の方からは、聞き取りをしてもいいので一文いただいて、町会史に掲載したいと思っている。

Q：これまでの節目に町会史等を作ったことはあるのか、それとも今回を機に資料集めを始めたのか。

A：今回の町会史を作るために資料集めをゼロから始めたところであるが、歴代の町会役員がしっかり記録を残してくれていたのが非常に助かっている。また、原稿については、自分で書いたものが載っていると見たい気持ちになると思うので、子ども達をはじめ、たくさんの人に参加してもらい、町会に暮らしてきた私たちの足跡が残るものにしていきたい。

#### 【主な意見】

- ・単に町会のデータ集にするだけでなく、子どもたちからもらった文章やイラスト、写真を含めて作るというアイデアは、携わった人を含めた住民の、町会への愛着につながると思うので、ぜひ実現していただきたい。
- ・古い写真も掲載するとのことなので、古い写真を提供してもらう時に、持ち主に写真について語ってもらい、記事にしても面白いと思う。
- ・良いものを作ろうという気持ちが伝わってきた。比較的歴史の浅い町会の良い事例になると思うので、頑張ってください。

#### 【採択結果】

合計点 74.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点（鴻野委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.7
合 計		74.8

● 27:「あのね、知ってる?ここにもフランス」プロジェクト/弘前グローバル・アクション  
【質疑応答(抜粋)】

Q: 事業の目的である「フランス文化を体験することを通して弘前の魅力を再発見」してもらうための仕組みはどのようなところにあるのか。

A: 普段は気付かずに通り過ぎていたかもしれない、フランスに関するものを取り扱っているお店をリーフレットで紹介して、読んだ人にお店に行ってもらうことで、フランスという観点から魅力を再発見してもらいたいと考えている。

Q: 大学は事業にどのように関わっているのか。

A: 椅子や机などを毎年大学から借りている。また、地域の活性化のために行っている活動なので、活動のPRもお願いしているところである。

【主な意見】

- ・弘前にあるフランス文化をフランスからの留学生に体験してもらって、その感想をリーフレットに掲載しているのがとても面白いと思う。
- ・弘前には、フランス料理と弘前を研究課題にしている人など、まだまだ取り上げていないフランスゆかりの部分がたくさんあると思うので、どんどん広げて、深めていっていただきたい。
- ・1%システムを活用するのは今回で最後という計画のようだが、将来後輩のメンバーが事業をステップアップさせるときや、この事業にプラスアルファで何か実施してみたいと思ったときに、1%システムで支援することもできると思う。

【採択結果】

合計点 75.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		75.6

● 17 : HIROSAKI JAZZ STREET 2018／弘前駅前遊歩道賑わい祭実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

・特になし。

【主な意見】

- ・長時間楽しむ人向けに、ステージとステージの間の遊歩道にも休憩できるスペースを作っていたきたい。
- ・人が集まり、地域に関心が集まるとごみのポイ捨てや落書きなども減って、安全を確保できるという考え方や、自分たちの地域は自分達でなんとかしていくという姿勢が素晴らしいと思う。
- ・団体による駅前遊歩道についての活動もこのイベントの日だけで終わるのではなく、また、イベントを組み立てる過程で地域の中で話しあうことの効果もあつてか、地域の様子が少しずつでも変わってきていると思う。

【採択結果】

合計点 85.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	9.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.4
合 計		85.5

● 9 : 弘前市民への防災力・減災力の向上推進隊/弘前市防災マイスター連絡会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : アンケートの対象を自主防災組織未結成の町会にしぼっているが、結成している町会に対しても、活動の現状などを調査することは考えているか。

A : 今回は、未結成町会にどのような問題があるのか、まったく想像がつかない部分があるので、未結成町会に対してアンケート調査を行い、その結果を分析しながら今後活動をどのように進めていけばいいのか考えていきたい。また、マニュアルを作る上では、すでに自主防災組織を結成して活動している事例を取り入れていきたい。

Q : 町会が自主防災組織を結成したあとに、貴団体ではどのようなサポートをすることを想定しているか教えていただきたい。

A : 未結成町会は250ほどあるが、それぞれの町会でさまざまな事情を抱えていると思うので、まず今回の申請では、それぞれが抱えている問題をアンケート調査することを進めていきたい。

Q : 貴団体の普段の活動について教えていただきたい。

A : 月1回役員会を開催している。そのほか、市防災安全課でステップアップのために実施している講習会等を受講するなどして技術を身につけている。

【主な意見】

- ・自主防災組織は作るだけでなく活動することが重要なので、町会のやる気を引き出しながら、組織結成後に活動に参加してくれる人を増やす方法などについてもサポートできるようにしていただきたい。
- ・市の防災に関して一番課題になっている自主防災組織の組織率の低さに対して、団体と

して貢献できることとして今回の事業を申請してきているので、今回は「組織化」や現状把握・課題整理に特化していて良いと思う。今後組織化が進んでから、次のステップでフォローアップの活動に発展することを期待したい。

- ・防災マイスターは個人個人が受講して資格を取っていることが多いと思うので、自分の町会に防災マイスターがいることを知らない町会もあると思う。そのような町会とマイスターをマッチングするなどマンパワーについての情報提供することで、より効果的に防災マイスターが活躍できる場を提供していただきたい。

**【採択結果】**

合計点 63.4 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 11 名で審査採点（一條委員は審査から外れる）

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.6
合計		63.4

● 24：無料の学習支援と食事提供の子ども食堂／こども食堂すこやかプロジェクト

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：現在は第一中学校区の子どもたちが参加者の中心になっているようだが、今後エリアを広げていく予定はあるか。

A：当初は第一中学校区を中心に考えていたが、事業を始めて半年ほど経ったあたりから全市に広げないといけないという思いで、少しエリアを広げて実施している。

Q：参加する子どもたちや、ボランティアの学生にはどのようにアプローチしているか教えていただきたい。

A：第一中学校区の小・中学校にチラシを配り、学校の先生を通して保護者に渡してもらっていたほか、知人から紹介してもらって参加している人もいます。また、学生に声掛けできる人が運営委員の中にいるので、弘大の医学部の学生を中心にボランティアで参加してもらっている。

Q：子ども食堂だけでなく、料理教室を合わせて開催するなど、参加しやすい方法として工夫していることがあれば教えていただきたい。

A：夏休みやクリスマスなどイベントがあるときには、学習支援を行わずバーベキューやケーキ作りに専念してもらうが、普段は学習支援をしている時間に食事を作っているので、勉強か料理のどちらかにするというふうには決めないといけなくなると思う。また、食事に十分な時間をかけていない親もいるようなので、親向けの料理教室をしてはどうかと考えている。

### 【主な意見】

- ・貧困は、個人情報保護の関係でなかなかアクセスしづらいこともあり、実態がわからないところがあるので、団体のみなさんも徐々に参加している親子と接することで現状を掴んでいるところだと思う。
- ・行政がなかなか手を出せない問題に対して、力強く活動している団体があることをうれしく思う。参加することを迷っている親子もまだまだいると思うので、このような場があることをどんどんPRして事業を継続していただきたい。
- ・これからますます必要になってくる事業だと思うので、経費の面で事業が継続できないということがないように、今後行政と連携していただきたい。
- ・継続経営が一番大きな課題だと思うので、この場に続けたい子どもたちの居場所がなくならないように、他の事例を参考にしたり他団体とパイプ作りをするなど、運営体制を強化することも考えていただきたい。

### 【採択結果】

合計点 84.0 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	9.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.7
合計		84.0

●30：第2回公演 メリーポピンズ／弘前こども・おとなミュージカルクラブ

【質疑応答（抜粋）】

Q：公演の観覧者はどのような人が多いのか。

A：出演者の家族もいたが、チラシ・ポスターを見てきてくれた人や、学校関係者、音楽や美術に携わる学生の観覧者が多かった。

Q：本番までの間に、別の場所でミュージカルを披露する機会はあるか。

A：町会の夏祭りや、弘前市民合唱祭、音楽ネットワーク弘前の合同コンサート等に参加することを検討している。

【主な意見】

- ・将来事業を運営するために、協賛金や広告収入を集めることを考えているとのことなので、徐々に準備を進めていただきたい。
- ・できるだけいろいろなところに出演して活動をPRしていただきたい。
- ・新しい出演メンバーを取り込めるように工夫していただきたい。

【採択結果】

合計点 68.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.6
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		68.5

6月18日審査結果（37事業のうち9事業）

採択とする事業

9事業

# 平成29年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（3日目）

日 時：平成30年3月19日（月）  
午前9時30分～午後4時45分  
場 所：市役所前川新館3階第1～3会議室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員（事業番号12まで）、鴻野委員、齋藤（秀）委員、  
藤田委員、柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、三橋委員、熊木委員、  
一條委員、木田委員、川村委員  
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会 3月17・18日に引き続き審査

### 《審査内容》

#### ●19：大仏公園あじさいまつり／石川町会

##### 【質疑応答（抜粋）】

Q：将来1%システムを活用しなくなったら、どのように事業を継続していく予定か。

A：将来的に補助金がなくなったときに、今の賑わいが無くなるのが心配である。あじさいまつりを、単に一地域のまつりではなく、市のまつりとして考えていただき、町会がまつりに協力するというかたちで開催できればと考えている。

Q：あじさいまつりのほかに公園を活用して行っていることがあれば教えていただきたい。

A：毎年5月に大仏公園でさくらまつりを行っている。

Q：現在は町会が主体となって事業を行っているが、主催者の中に地域の農協や福祉施設など、ほかのメンバーを迎え入れた実行委員会形式に移行することは考えられるか。

A：町会も若い人がおらず、どこまでできるかはわからない。農協などに協力してもらえ  
る可能性はあるかもしれないが、あとは現在の中心メンバーがどれだけ力を出せるかだと思  
う。

##### 【主な意見】

- ・補助金に頼らずに事業を運営することを考えるにあたって、お金をどのように工面する  
かだけでなく、経費を少しずつ実験的に減らしながら、同じような効果を得られる方法  
を考えていただきたい。
- ・今の段階では、お金をかけずにイベントを開催することで今までとは違うところが出て  
きてしまうより、そのままの状態でも周知を図った方が、効果があると思う。
- ・弘南鉄道の電車内に川柳を展示する予定があるが、川柳の作品だけでなく子どもたちが  
描いた絵や折り紙の作品などさまざまなものを飾って、車両をにぎわせていただきたい。



- ・農協まつりなどイベントを行っている農協の支店や、女性部、青年部などを巻き込むことで事業の可能性が広がるように思う。

**【採択結果】**

合計点 79.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合計		79.8

● 31：第7回こぎんフェス/こぎんフェス実行委員会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：1%システムを活用しなくなってから、どのように事業を継続していく予定か。

A：まだ構想段階ではあるが、経費の中で一番大きい会場費の部分を協賛してもらっても今後考えていきたい。

**【主な意見】**

- ・アンケートの項目で、否定的な意見であっても理由を書いてもらったほうが、次回以降のイベントを計画するとき参考になると思うので、項目を検討していただきたい。
- ・観光客がワークショップや商品を購入してリピートしたいと思ったときに、リピートする方法をフェスの中で教えることができれば、フェス以外でもどんどんこぎんが広がる可能性が出てくると思う。
- ・アンケート結果を見ると、イベントを知ったきっかけの半分以上がホームページ・SNSと知人からの口コミなので、チラシやポスターの数を調整するなど、周知方法を工夫することで経費削減につながると思う。

【採択結果】

合計点 75.8 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		75.8

- 23 : みんなのウォークラリー大会 <城下町弘前の文化>に触れながら街探検をしよう  
 /特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

【質疑応答（抜粋）】

Q : 1%システムの申請を始めて3回目となるが、採択される前後で変わったことがあれば教えていただきたい。

A : QRコードをチラシに入れるなど申込方法を工夫したこともあり、参加者数が倍近くになった。また、体験の種類を増やすこともできた。

Q : 高齢者や障がい者の参加割合を教えていただきたい。

A : 高齢者は全体の大体3分の1ほどになる。また、毎年参加してくれる障がい者もいる。健常者も障がい者も壁を取り払って、散策しながら弘前を知ってもらうことや、仲間同士でコミュニケーションを深めてもらうことを目的にこのウォークラリーを行っている。

Q : 昨年度まで「ひろレクデー」と同時に申請していたが、今年度はひろレクデーは実施しないのか。

A : 実施する。団体の事情ではあるが、新しいメンバーに事業を引き継ぎ、新たな視点を取り入れていく時期に差し掛かっており、それぞれの事業を特化させたかたちで発展させたいということになった。今回はウォークラリーの良さをより深めて市民に参加していただくために、単独のイベントで申請している。

【主な意見】

- ・開催日までに1%システムを活用しているイベントがほかにも行われるので、そのイベント会場で参加者を募集するなど、いろいろな周知方法を試してみたい。

【採択結果】

合計点 74.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合 計		74.5

- 12：親子触れ合い「親子じゃれつき遊び」と子どもの生活習慣・体力・社会性をはぐくむ「コーディネーションを取り入れた運動遊び」／子育て支援サークルママーズクラブ

【質疑応答（抜粋）】

Q：参加している母親の感想を教えてください。

A：家に帰ってから、その日に子どもができたことを共有する時間ができ、会話が増えるという話を聞いている。

Q：特に小さい子どもがいる家庭では、お互いの情報交換の場が大事になると思うが、平日働いている親も参加できるように、土日に開催することはできるか。

A：開催できる。ただ、過去にも土日に開催したことがあるが、土日は家族の時間という方もいるので、必ずしも土日に開催したからといって参加者が増えるわけではなかった。

【主な意見】

- ・子育てへの不安や子どもの運動能力を高めたいという思いがある親にとって、とても良い取り組みだと思うので、同じような事業を行っている団体と連携・情報共有して参加者を増やしていきたい。
- ・母親同士の交流が広がるためにも、母親が集まることができる場がたくさんあることが

望ましいと思う。また、体を動かすことでのストレス軽減・リラックスが望め、母親同士が向き合って話せることはとてもいいことだと思うので、ぜひ応援したい。

- ・参加者を募集するチラシに難しい専門用語が前面に書かれていると参加を躊躇する人も出てくると思うので、子どもとの遊びや子育ての悩みについての情報共有といったところを前面に出し、裏面で裏付けられた理論を説明するなど、表現の仕方を工夫していただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 69.2 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.2
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.8
合計		69.2

#### ● 1 : 市民健康増進事業「第7回 津軽岩木スカイラインを歩いてみよう会」／弘前歩こう会 【質疑応答（抜粋）】

Q：県外からの参加者は、どのようにこの事業を知ったのか。

A：県外へは、日本ウォーキング協会が出版している雑誌に広告掲載したり、県の観光連盟のホームページや各都道府県のウォーキングイベントを紹介するホームページに掲載してもらう方法で広報している。今年はそのほかに、ツーデーマーチの会場でチラシを配置してもらう予定である。

Q：スカイラインを登った後、バスでそのまま弘前駅まで帰ってくるコースになっているが、途中下車することはできるか。

A：参加者には、登山するかどうか、帰りのバスに乗らない・あるいは途中下車するといった意思表示をってもらうカードを渡しており、その意思のある方に提出してもらうことで参加者が帰りのバスでは何人減るかチェックできるようにしている。今後も、参加者の要望には随時応えていけるようにしたい。

Q：この事業を実施してきて岩木山をPRした結果、手ごたえのようなものがあれば教えていただきたい。

A：会としての把握がなかなか難しいが、旅行会社が、岩木山を8合目までバスで登り、スカイラインを歩いて下るといふ当事業とは逆のルートのツアーを組むなど、全国向けの事業ができていふほか、年に2～3回ネットや全国誌で事業が紹介されている。

**【主な意見】**

- ・一番経費がかかるのはバス代なので、例えばバスにバスの公益事業として協賛社の広告を入れてもらうことでバス代を減らすような仕組みができれば、1,000円ほど参加費を値上げすることで自立して事業を運営できると思う。
- ・新規や何回かに1回参加する人が毎年一定数おり、ニーズがあることがわかるので、継続して実施していただきたい。
- ・将来を見据えて、参加費を増やすなど実験的な試みも行っていただきたい。

**【採択結果】**

合計点 73.1点 ≥60.0点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.1
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		73.1

● 4：防災・地域づくり・地域世代間交流事業

「第2回 西部仲町 自主防災会 避難訓練事業」／西部仲町 自主防災会

**【質疑応答（抜粋）】**

Q：公園から時敏小学校までの搬送訓練を行うことになっているが、学校のどこまで搬送するのか。

A：大規模な災害があった場合は、地区住民は時敏小学校の体育館に避難することになる。ただ、町会の堰があふれた場合など、時敏地区内でも局地的に被害があった場合は学校の

どこを使うことになるのか、この避難訓練をきっかけに学校と協議を重ねていきたい。

Q：自主防災組織を立ち上げるときに「自主防災組織育成支援事業費補助金」として60万円を上限に補助があるが、西部仲町町会の特徴としてさらに買い足さなければならないものなどあれば教えていただきたい。

A：町会に集会所や会館があるかどうかで立ち上げの際の補助金で買うものが大きく変わってくる。当町会には集会所等がないため、購入した備品を補完する物置をその60万円の中から購入することになる。昨年から5年ほどの計画で、消防から必要だと指導いただいたものを揃えていこうと思っており、すべてそろえば避難訓練自体は毎年10万ほどあれば十分対応できるようになる。

#### 【主な意見】

- ・消防などの指導をしっかり受けながら取り組んでいるこのような事例を、ほかの町会が参考にして防災訓練を行ってほしいので、「ひながた」になるように何年かかけて事業のやり方を構築していただきたい。
- ・ほかの町会活動でも使うような消耗品と、避難訓練に本当に必要なものを厳密に厳選していただきながら事業を実施していただきたい。
- ・昨年度実施した際のチラシには、訓練当日のプログラムだけでなく、自宅の出発時間・避難場所への到着時間、チェック欄などが付いているのが非常によいと思った。今年度もわかり易いチラシを作っていただきたい。

#### 【採択結果】

合計点 79.6 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.2
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合 計		79.6

●3：文化振興事業「第2回 大森勝山遺跡と世界遺産登録を学ぼう会」／弘前縄文の会

【質疑応答（抜粋）】

Q：大森勝山じょうもん祭り当日のシャトルバスの運行について教えていただきたい。

A：中型のバスを貸し切って、JR弘前駅城東口から大森勝山遺跡のある会場まで運行する。無料なので、子ども中心に乗ってもらっている。

【主な意見】

- ・世界遺産登録が可能になれば、市の方でも本格的に力を入れていくことになると思う。積極的にPRしていただきたい。
- ・大森勝山遺跡を会場にした事業が含まれているのは、参加者にとってとても良い体験になると思う。
- ・学校教育の中でまだ取り入れられていないことを補完するようなかたちになっており、理想的な活動だと思う。

【採択結果】

合計点 81.8 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.2
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.4
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.2
合計		81.8

●2：青少年健全育成・地域づくり・地域世代間交流事業

「第5回 津軽の伝統文化と昔の遊びに触れてみよう」／時敏地区青少年育成委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業をきっかけに、小学校の部活などに取り入れられた例があれば教えていただきたい。

A：子どもたちの様子を見ると、和楽器に興味を持っているのがよくわかる。道具を揃えるなどの条件を整えば、クラブ活動などに取り入れることができるかもしれないので、今

年はそちらのほうに発展できるように考えていきたい。

Q：昔の遊びとして、具体的にどのようなものを扱っているか。

A：14種目ほど行っていて、去年から輪ゴムを使ったゴム鉄砲を取り入れたり、単純な紙ひこうきが折れなくなっている子どもが増えているので、紙ひこうきを折って飛ばしたりしている。市内各児童館等に呼びかけたことから、半分以上の児童館にずぐりや昔の遊びの道具が揃えられ、5年前に目標としたことはほぼ達成されたと考えている。今後、スポーツの部活がスポーツ少年団に移行されているので、今後この事業が文化部のようなものができるきっかけになればいいと考えている。

Q：他地区の人が視察に来たいという場合は、受け入れることはあるか。

A：市の育成委員のメンバーとして、機会があるごとに情報を流しており、毎年2～3地区から見学に来ているので受け入れている。

Q：青少年健全育成に関わる事業を行うにあたって、地域コーディネーターが大事になってくると思うが、団体としての考えを教えてください。

A：コーディネーターは、まずは意欲がある人を見つけ出すことから始めていかないとけないと思う。そして、地区ごとに条件が違うので、地区の特徴を見極めてコーディネートできるような人をチームとして組めるような人材を育てていくことが大事だと考えている。どのような事業を行えば子どもたちにとってプラスになるのかを考えてもらうのは各地区のコーディネーターになるが、そのもとになるようなノウハウは必要があれば伝えていきたい。

#### 【主な意見】

- ・地域で集中して行われた方が効果的な事業であるが、一方で他の地域や子どもたちにも一定の基準で同じようなプログラムが共有できればいいと思う。
- ・将来的に、市の事業として予算化されるような道筋が一番理想的だと思う。
- ・どの事業でもいえることだが、圧倒的にコーディネーターが不足している。小学校区ごとに再生を図り、それらをつなぎあわせることで弘前全体のまちづくりになると思うので、行政と一緒にコーディネーターの育成の在り方も考えていかなければならないと思う。

#### 【採択結果】

合計点 80.4 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点



審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		80.4

● 26：鬼檜地区「歴史と伝説の里づくり事業」／歴史と伝説の里「鬼沢の会」

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年のスライド弁士研修会の成果を教えてください。

A：一人前と考えても良いだろうという人が3人増え、全部で4人になった。地域の研修会館で地域住民を対象としたスライド上映会を行うことになったが、4人で分担してパート分けしてみるなど、やる気になっている。

Q：ツアーの対象は、Iターンを考えている人というよりは弘前周辺の都市部の人になるのか。

A：県内の都市部の人たちとの地域交流・情報交換が中心の目的となっているので、市内及び周辺地域の人を対象としている。

Q：将来、事業が根付いていった後の展望を教えてください。

A：受け入れる方法の工夫も必要だが、だんだん事業の規模を拡大していけるようにしたい。地域の各団体が個々に活動はしているけれども連携していないのが現状だが、中学生の体験を受け入れてほしいと言った要望もあるので、少しずつ受け入れる体制を作っていきたい。

【主な意見】

- ・スライドを復元して弁士が4人に増えたところなので、この火を消さないように、意欲を持って続けていっていただきたい。そのためには、地域外の人たちに披露する場は必要である。

【採択結果】

合計点 71.3 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.1
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.1
合計		71.3

- 16 : ～ 和徳の歴史の探求と伝統ある津軽の歴史の魅力発信事業 ～ 題「けの汁発祥の地和徳城」和徳城主 小山内讃岐の守没後 4 4 7 年祭」／和徳歴史探偵団

【質疑応答（抜粋）】

Q：自立に向けて、思い描いているストーリーがあれば教えていただきたい。

A：1%システムに申請した理由の1つは、活動を周知することだったが、今まで採択していただいた中で周知に関しては一段落したという思いがあり、もう少し講座を開けるようになって、自立へ近づくことができるのではないかと考えている。

Q：けの汁コンテストの時期がずれると、けの汁と没後祭との関連がなくなるのか。

A：没後祭での1,000食のふるまいは今まで通り行う。コンテストは、今まで和徳学区の宮川交流センターで実施してきたが、交通の便があまりよくないため、市民の皆さんに試食・投票に参加して欲しくてもなかなか来てもらえなかったため、市内で調理施設があるところや学校施設などを借りられないか検討中である。

【主な意見】

- ・団体の説明の中にもあったが、大体目的を達成しつつあるということなので、審査会としては自立に向けた最後の支援をしていけばいいのかなという印象を受けた。

【採択結果】

合計点 72.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合 計		72.5

● 28 : 「簡単な韓国語で弘前を紹介する講座」事業／弘前韓国語勉強会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : さくらまつりのほかに、ねふたまつりや菊と紅葉まつりなど身につけたことをフィードバックできる場があるが、今回のゴールはさくらまつりのガイドになるのか。

A : 参加者のリストがあるので、まつりごとの事前学習の案内をして、祭りごとに継続してやっていきたいと考えている。さくらまつりのときに力を入れて勉強して、その参加者たちと一緒にねふたまつり・菊と紅葉まつりで案内を行うというイメージを持っている。

Q : 団体の普段の活動として実施している勉強会に参加してもらいながら、継続して韓国語を勉強してもらおうというイメージで合っているか。

A : 合っている。補助金をずっともらえるものではないと考えているので、はやく普段の勉強会で講師ができる人や観光案内ができる人を育成したい。

Q : 雪燈籠まつりのときには、残念ながら韓国からの観光客に出会わなかったようだが、さくらまつりではうまくいきそうか。

A : 日曜は韓国への帰国便の日で、午前10時頃には弘前を出発していることがあとでわかった。今回は曜日を変えてガイドをしたい。

【主な意見】

- ・受講生同士が韓国や韓国語に関する情報交換ができるような、参加して楽しい講座にしていただきたい。
- ・事業の企画がさくらまつりに向けてのものになっていたが、事業を進めていっての手ごたえによっては、2次・3次の申請のタイミングで事業変更ということもあり得ると思う。

【採択結果】

合計点 64.5 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		64.5

3月19日審査結果 (37事業のうち11事業)

採択とする事業 11事業

# 平成29年度第6回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（4日目）

日 時：平成30年3月21日（水・祝）

午後1時～午後5時55分

場 所：市役所前川新館3階第1～3会議室

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、藤田委員、柴田委員、山形委員、  
齋藤（紀）委員、垣内委員、三橋委員、熊木委員、木田委員、  
川村委員  
市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主事、神主事

## 1 公開プレゼンテーション・審査会

3月17～19日に引き続き審査

《審査内容》

### ●13：焦点—弘前とかけて落語ととく、その団体とは—／弘前男女らくご振興協会

【質疑応答（抜粋）】

Q：昨年の参加者にはどのような人がいたのか。

A：学生や学校の先生、営業マンなど、コミュニケーション能力を必要と考えている人が参加していた。

Q：この講座でターゲットにしたい人はどのような人なのか。

A：リーダーを育成していきたいという気持ちもあり、コミュニケーションを上手くとれることで、人を導いていきやすくなると思うので、人に何かを教える立場にある人や学生に参加してもらいたい。

Q：昨年講座を実施してみたの効果を教えていただきたい。また、参加者からは次回も引き続き参加したいという声はあるか。

A：コミュニケーションをとる上での大切な言葉を文字にすることで明確にしてもらえた、数回参加してコミュニケーション能力が向上したなど、参加者からは好評だった。講座との因果関係を証明するのは難しいが、参加者には能力の向上を実感してもらえているようである。また、参加者からは講座に関するさまざまな要望があるので、参加したいという気持ちもあると考えている。

Q：今回の内容は、前回の参加者がステップアップできる内容になっているのか、前回の内容を繰り返すのか。

A：前回良かったものを残しながら、講師は今回お願いした方から紹介していただくなどして、新しい内容を入れていきたい。

【主な意見】

- ・ 4回通して受講しなくても、2回くらい参加することで全過程を体験できるようにしてもらえれば、途中から講座を知った人にも参加してもらいやすくなると思うので、開催方法を検討していただきたい。
- ・ しばらくは、参加者が楽しみながら集える場所として開催するのもよいのではないかと思う。

【採択結果】

合計点 73.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.0
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		73.5

● 32 : 岩木山YOGAフェスティバル／特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 今回、地域のインストラクターを中心に行い、都心部の人気講師を呼ばない理由を教えてください。

A : 今まではイベントの認知度を上げ、活動を広めることを意識していたが、開催していくうちに地域のインストラクターとの協力体制が出来上がってきており、地域のみんなで十分開催できる見通しが立ったため、地域密着型として開催したい。

Q : 雨天時のプログラムについて詳しく教えてください。

A : ヨガは岩木青少年スポーツセンターの体育館で実施するが、登山など外のアクティビティは雨天の場合中止にする。

Q : 31年度まで補助金を要望するとのことだが、それ以降はどのように事業を実施する予定か教えてください。

A：2回開催したことで、認知度が高まってきたこともあるので、地域のみなさんと協力し合い、予算を考えながら自立に向けて動いていきたい。

**【主な意見】**

- ・前回の反省点をいろいろ出し合い、課題を見つけて今回の企画に盛り込んでおり、ステップアップしていることがうかがえる。
- ・屋外のイベントで実施には苦労があると思うが、あえて津軽の財産である岩木山のふもとで、ゴミを持ち帰ってもらうなど環境についての啓発を含めながら自然を生かして開催することは素晴らしいと思う。
- ・イベントのメニューが子どもから高齢者までに対応できるかたちになっており、地元の人を活用することで弘前に根付いたものへとなりつつあるので、とても期待できる事業だと思う。

**【採択結果】**

合計点 78.5 点  $\geq$ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		78.5

● 33：お仕事体験広場キッズハローワーク／お仕事体験広場キッズハローワーク実行委員会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：体験できる職業の入れ替わりなどがあれば教えていただきたい。

A：職業そのものというより地域との連携を大事に考えており、例えば弘前医療福祉大学に介護体験ブースをお願いするなどして、自分たちの地域にはどのような仕事があるのかを見てもらうだけでなく、大学生になった時の自分の姿を想像してもらう機会になればと考えている。また、昼職人の体験機会を作り、畳を敷いた和室で茶道体験をできるようにするなど、ものの流れを理解してもらえるように工夫をしている。

Q：来年度以降は補助金を要望しないとあるが、事業を継続する見通しは立っているか。

A：なるべく自立して参加費で賄いたいと考えている。また、企業から参加したいという声が出てくるようになっており、企業にも協力してもらうことで経費を抑えられると考えている。もし来年度で自立できなくても、満額50万円の申請ではなく、少し足りないのをお願いします、というかたちにしたい。弘前では、地域と連携してこのような子どもを育てるイベントができていると示していきたい。

Q：ブースを準備する上でさまざまな細かい部分があると思うが、どのように行っているのか。

A：体験させる側の大人にも説明会を開催し、参加してもらうことで事業の主旨を理解してもらっている。主催側からは、体験時間や体験の流れなど細かく要望を出しているが、それを理解して参加してもらっているため、企業側はこちらの要望以上の準備をして臨んでくださっている。また、会場設営にはたくさんの学生が関わっており、非常に助かっている。

#### 【主な意見】

- ・小学5～6年生は税金のことを学び始めるので、仮想税務署や仮想消費税のようなものを作ると、子どもたちのさまざまな気付きにつながると思うので検討していただきたい。
- ・弘前では、こんなに多くの業種が集まる機会は少ないと思うので、子どもだけでなく保護者の方も刺激を受けるいい機会だと思う。
- ・企業からブース代を払ってもらっているのが、後々協賛金に発展していけばとても理想的な運営のしかたになると思う。

#### 【採択結果】

合計点 86.5 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点



審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.5
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	9.2
合 計		86.5

● 34：りんごのある暮らしと仕事／お仕事体験広場キッズハローワーク実行委員会  
【質疑応答（抜粋）】

Q：参加する子どもの定員を20人としているが、バスには50人乗ることができるので、スタッフ分を除いた30人まで定員を増やすことはできないか。

A：検討したい。高学年の子どもを対象としているが、去年はどうしても下の子も一緒に体験して欲しいという例があったので、そのような子どもたちを受け入れる可能性があると思う。

Q：ほかにもりんごを取り上げている1%システム採択事業があるが、その団体と連携することは考えられるか。

A：もちろん一緒にできることがあれば連携することはできると思う。シードルの関係では一緒にやっていることもある。

Q：次年度以降の展開や将来の展望などがあれば教えていただきたい。

A：りんごの生産者がいなくなると、そのほかのりんご関係の産業も打撃を受けることはみんなわかっていると思うが、このような活動を続けて訴えかけていき、将来的にはりんごの各種関係団体と連携して事業を進めていけるようになりたい。

【主な意見】

- ・りんご農家の高齢化や後継者不足が深刻化している中、このような事業を考えてくれるのは素晴らしいと思う。たくさん子どもたちが参加するような事業にしていきたい。
- ・予算に限りはあると思うが、事業を実施した後に、実施の様子を学校等に配信することができれば、次年度にもつながると思う。

【採択結果】

合計点 78.3 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.3
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		78.3

● 18 : いわなのつかみどり体験/特定非営利活動法人 藤代地域ふれあいの会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 前回実施してみてもの課題を今回の事業にどのように生かしているか教えていただきたい。

A : 地域内にある2つの小学校PTA会長や総務の方と話をし、生けす作りや受付などに協力してもらうことになった。

Q : 1%システムを活用する前と後ではどのような違いがあるか。

A : 今まで農協などから借りていたものを購入できたため、安定した事業へ近づいたと思う。昨年は生けすの材料である単管を購入し、今回はコンテナを自分達で購入したいと思っている。

Q : 次回以降は、大きな材料費がかからずに、事業費が減ると考えてよろしいか。

A : コンパネやブルーシートなど、数年に1回買い替えるものがあるほかは毎年かかるのはいわな代だけであるため、次回以降の事業費は大きく減ると思う。

Q : 単管やコンテナなどの材料を購入する必要がなくなるのに対し、補助金の要望が35年度までとなっているが、このほかにかかる経費があれば教えていただきたい。

A : 消耗品でも何年かに1回買い替える必要があるため、数年は順次交換しながら事業を進めていきたい。来年からは申請する金額も小さくなる。

Q：チラシは何枚作成し、どのように配るのか。

A：3,000枚作成し、一戸一戸まわって毎戸に配布する。

【主な意見】

- ・賃金を出すボランティアと出さないボランティアの違いが分かりづらいので、しっかり整理していただきたい。
- ・現在ボランティアとして参加してくれている人をがっちり掴んで、将来的に運営側に巻き込めるようにして、ボランティアにかかる費用も軽減できるように事業の基盤を作っ  
ていただきたい。
- ・子どもが対象ではあるが、参加費を取ることも検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 66.0 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.3
合計		66.0

● 22：中心6 商店街接客英会話 無料セミナー・観光 英語ボランティア事業

／弘前市英会話サークル Globish

【質疑応答 (抜粋)】

Q：さくらまつり以外の四大祭り期間中のガイドの仕方を教えていただきたい。

A：ねふた期間は駅周辺に外国人が多いが、土手町運行のときは、ねふたが始まると駅周辺に人が少なくなるので、駅前運行のときに集中してガイドしたい。菊と紅葉まつりの期間は長いので、土日に実施したり時間があるメンバーがビブスを着て案内するようにしている。雪燈籠まつりのときは、昨年同様、3日のうち1日だけみんなでガイドする予定である。冬も外国人観光客が増えており、特に中国や台湾からの人が多い印象だった。

Q：ビブスを着ているときは、積極的に声掛けするのか、それとも話しかけてくるまで待っているのか。

A：こちらから挨拶するようにしている。気さくな感じでどこから来たんですか？といった質問をしていると、相手方も話しかけて良いと思ってくれるようで、そこから会話が生まれる。場所を聞かれることが多く、弘前城の歴史など、ボランティアガイドの会が行うようなガイドはしていない。

Q：外国人の受け入れに消極的な商店街へのアプローチの仕方を教えていただきたい。

A：外国人が来てほしくないお店や人、事業所もあるし、いろいろな考え方があるので、インバウンドに興味がある人には最大限協力し、現時点で興味を持っていない人に押し付けるようなことはしないようにしている。

### 【主な意見】

- ・中心商店街の接客英会話セミナーも行っているということなので、夜に食事を取りたいという観光客から尋ねられたときには、ぜひ鍛冶町エリアなどへの案内もしていただきたい。
- ・商店街のおもてなしセミナーに受講したお店はどこなのか知らせてもらえる機会があれば、外国人観光客も観光しやすいと思うので、店先にステッカーを貼ったり、専用のパンフレットを作ることも検討していただきたい。

### 【採択結果】

合計点 72.2 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.3
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.2
合計		72.2

● 11 : 弘前さくらコンサート Vol. 4/Rainbow Muse Hirosaki

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 鍵盤ハーモニカの練習場所や回数などを教えていただきたい。

A : 公共施設や学校の教室を使って月1～2回開催できればと考えている。

Q : 鍵盤ハーモニカに参加する人は昨年に比べて増えそうか。

A : 増えると思う。昨年さくらコンサートに出演した子どもの中には、弘前音楽祭に出た子もおり、親やお友達の中に今度は出たいという人たちもいる。また、ロコミでも広がっているようである。

Q : 入場料が前回の1,000円から2,000円に上がっているが、集客のために考えている工夫などあれば教えていただきたい。

A : 今年は参加してくれる団体も増えているので、みんなでチケットを売っていきたい。また、小中学生は、先着100人を招待する。一緒に来る親は、チケットを購入してもらおう。親子揃って鍵盤男子の演奏を聴こうとPRしていきたい。

【主な意見】

- ・年々いろいろな工夫を重ねて、ピアノはもちろん鍵盤ハーモニカや合奏など、市民がみんな集って音楽を楽しもうという目的が見えるようになってきた。
- ・自立について真剣に考えているのがよくわかった。今回有名なアーティストを呼ぶことで、適正なチケットの価格を探ることができると思う。
- ・市民会館のピアノは使われる機会が非常に少なく、ピアノが使われる機会を1つ増やすというだけでも価値があると思う。
- ・プロの演奏を1時間聴くことができるだけでなく、市民と一緒に演奏する時間も設けてもらうなど、団体の努力がうかがえる。

【採択結果】

合計点 76.9 点  $\geq$  60.0 点 ⇒採択 (申請額どおり)

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.1
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.2
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.6
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.8
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		76.9

● 10：弘前スティールパン・フェスティバル／弘前大学スティールパン部

【質疑応答 (抜粋)】

Q：この事業以外にどのような活動をしているか教えていただきたい。

A：弘大祭に出演するほか、依頼されて演奏を行ったり自主コンサートを開催している。

Q：ワークショップで作ったスティールパンは参加者が持ち帰るようだが、調律は簡単にできるのか。

A：作る時に使った道具も一緒に持って帰ってもらうので、自分で直したりすることもできる。

Q：この活動が単なるカルチャースクールではなく、まちづくりであるということに関して、団体の考えを教えていただきたい。

A：めずらしい楽器だから知ってもらいたいという思いはもちろんあるが、知らない人たちと共同で楽器を制作したり、数曲演奏する有意義な時間を過ごしてもらえるような、新たな交流、人のつながりが生まれることが一番大きいと思う。続けていくことで、大学の部活以外にも弘前の中に市民バンドができるようになれば嬉しい。

【主な意見】

- ・スペースデネガには駐車場がないので、ポスターやチラシなどのその旨記載して周知していただきたい。
- ・参加してもらいたいと思ってもらえるように、PRにも工夫していただきたい。
- ・スティールパンを知らない、どのような音なのかわからないという人がほとんどだと思うので、スティールパンフェスティバルとは別にいろんなところで演奏してみたり、練習の様子を公開したりと、興味を持ってもらえる機会を作っていただきたい。

【採択結果】

合計点 64.7 点  $\geq$  60.0 点  $\Rightarrow$  採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.0
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.1
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.4
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.5
合 計		64.7

3月21日審査結果（37事業のうち8事業）

採択とする事業 8事業

1次募集事業の審査結果（37事業） 3月17日～19日・21日審査合計

採択とする事業 35事業

不採択とする事業 2事業